



出町ゆかりだより

日本共産党
高槻市議員

発行：日本共産党高槻市議員団 出町ゆかり

連絡先：議員団控室 TEL072-674-7230 FAX072-674-3202

NO.80 2018年4月

3月議会

一般質問

3月議会が終わりました。わたしは、榎田地域の高齢者の医療・福祉について質問しました。以下概要をお知らせします。

榎田の現状について

市内中心部から遠く、過疎化が進み、高齢化で介護や福祉の問題、子育て支援では長期休みの間の居場所がないなど、市街地と比べ、大きな

不便があります。また、芥川の上流、源流でもあり、高槻市全体の保全に大きな役割を果たしています。

介護について

榎田地域は高齢化率が50%近くあり、要介護認定を受けている人は22.2%、高槻市全体の平均が16.2%です。他と比べ

ても高いというところがいえます。しかし、介護サービスの利用は他より低く、特に訪問介護は利用しにくい状況があります。今

の現状を市はどう認識しているのかと聞きました。

(市の答弁)

昨年11月時点の介護サービス利用者は39人。昨年秋季には、高槻北地域包括支援センターにより、各地区ごとに介護保険サービス等についての説明会を開催し、住民の方から、今後の介護保険サービスの提供体制、榎田地域全体の高齢化の進行による自助や互助の難しさ等の意見交換を行いました。

(出町)

説明会の資料をみました。参加者からは「同じ高槻市民なのに、榎田は遠いから行けないと言われた」「山間部加算をつくらなければ、事業所ももつたら、事業所ももつと榎田にきてくれるのではないか」「榎田で寝たきりの人を在宅介護でき

ない」「同じ介護保険料を払っているのに、なぜ利用できないのか」などの意見が出されています。せめて支所にヘルパーさんの待機所をつくってもらえたら、そこを拠点として1日に複数以上の訪問が可能になる、そうすれば榎田に入る事業所も増えるのではないかと、いう声もでています。

(市の答弁)

3月22日に社協、北地域包括支援センター、地域住民の方たちとワークショップを開きました。介護保険サービスの提供体制も含め、様々な観点から意見交換ができました。今後も、継続的に実施していきたいと考えています。



医療について

医療については、**榎田**地区の人口の減少と、この間受診者が減っていることについて質問しました。市は

榎田地区の人口の減少と高齢化が影響しているとのみ答弁しました。

意見・要望

介護の面でもこれからますます、大変になってきます。どうすれば、他の地域と同じように介護サービスを提供できるか、地域包括支援センターなどの関連事業所といっしょに考えてほしい。

担当課だけでは解決できません。榎田全体のまちづくりをどうしていくか、住民のみなさんと行政が話し合っていくことが必要ではないかと意見、要望を述べました。

診療所の受診者数が減っているのは、病気になっても診療所まで行く交通機関がないことも大きな要因だと思えます。榎田では介護の面でも、医療の面でも、子育て支援の面でも、



本会議 質問

児童福祉法が改正され、重度の障害児（医療的ケア児）に対して、市が在宅で介護されている重度障害児の訪問型支援を実施することになりました。わたしは高槻市立療育園に行き、お話を聞きしました。新生

児童集中治療室などの医療技術の進歩により、この高槻市でも重度の障害児は増えているとのこと。生まれてすぐ、人口呼吸器をつけなければならぬ子どもさんや、生まれて一度も口からものを食べられない子

どもさんなど1人ひとり大変な状態です。わたしは、「園の指導員は1人でリハビリと言っても、1人ひとりの状態は違うし、接し方も違います。園としては、寝たきりの子どもを専門職が行って、抱き上げてリハビリをする。そして、その方法を保護者に伝

文教・市民委員会

高槻市では、2015年度から小学校の就学援助は、小学校6年生の3月に支給しています。それは制服などは入学前に準備しなければいけないからです。

しかし、現在小学

校の入学前には支給していません。わたしは「小学校でも入学前はランドセルなどの準備に費用はかかりません。国の調査でも、小学校1年で53,697円、中学校1年生で58,603

円かかることも出ています。今、貯蓄がない世帯が3割を超えている中、他市では入学準備品を買うためにサラ金から借金をし、返済に大変な思いをしているという事例があります。他市では小学入学前に支給していると

高槻市でも小学校でも入学前に支給するよう「」と要望しました。

高槻市でも小学校でも入学前に支給するよう「」と要望しました。

